

<p>前年度評価結果の概要</p>	<p>○校門指導の方法を見直し、複数の教員で野指導を行い、生徒の意識を変えることに一定の成果を得ることができた。 ○服装違反する生徒が固定化され、そうした生徒への指導に苦労している。 ○全教科での研究授業・研究協議の実施、ICT聴きの利用、グループ学習の推進などにより、生徒による授業アンケートにおいて、評価が若干上昇した。 ○年度当初の生徒情報交換会、教育相談係会議、学年部との連携等により、不登校傾向の生徒が教室に入れるようになった。 ○課題の提出状況は十分とは言えず、事後指導の体制の改善が必要である。 ○PTA・保護者、地域との協働や「由布高だより」等の発行により、家庭・地域との連携による中高一貫教育の推進を図ることができた。 ○4月の部活動体験入部期間が地震の影響により短縮され、県総体後に再度体験入部期間を設置し、入部率は例年並の66.6%であった。 ○中高合同生徒会活動では、合同生徒会新聞の発行、合同ボランティア活動を通して、生徒間の交流が活発になった。</p>
-------------------	---

<p>学校教育目標</p>	<p>中期目標</p>	<p>重点目標</p>
<p>「誠実・友愛・努力」の校訓のもと、知・徳・体の調和がとれ、社会の一員として社会規範を守り、公德心豊かで、自己実現を目指す心身ともに健全な人間の育成に努める。</p>	<p>○「誠実・友愛・努力」の校訓に基づいて、努力を惜しまず、困難に向かって挑戦する態度を養う。 ○知性と情操を高め、公德心を重んじる精神を養う。 ○望ましい勤労観、職業観の育成や奉仕の精神の涵養を図る。 ○地域に愛され、地域に貢献する人づくりの推進 ①連携型中高一貫教育の充実 ②活性化事業「めざせ由布マイスター」の推進</p>	<p>○ 基本的な生活習慣の確立 ○ 志を実現する主体的学びの定着 ○ 地域に愛される学校づくり</p>

重点目標	達成(成果)指標	重点的取組	取組指標	PL SL	評価	自己評価結果		次年度の改善策	学校関係者評価
						分析・考察			
○ 基本的な生活習慣の確立	<p>○ 毎月の頭髪服装検査において、「身だしなみ」で注意を受ける生徒の割合を、5%以内にする。</p> <p>○ 授業規律と課題提出の徹底を図ることで、自発的な学習態度を養う。未提出者への指導による提出も含め、課題提出率100%をめざす。</p> <p>○ 人権意識を高め、生徒及び職員間の信頼度100%をめざす。</p>	<p>○ 毎月の頭髪服装検査及び校門指導をとおして、着こなしの徹底を図る。</p> <p>○ 課題にしっかりと取り組ませることとおして、学習習慣を身につけさせるとともに、家庭学習時間の確保につなげる。 ○ 授業に集中する態度の徹底を図る。</p> <p>○ 教育相談に関する研修、情報交換を行い、生徒理解を深め、生徒が生き生きとした学校生活を送れるような教育環境の整備・支援に努める。</p>	<p>○ 月1回の頭髪服装検査及び毎朝の校門指導を複数の教員で行い、服装が整備されていない生徒等については、番仕活動させる取組を全職員で行う。</p> <p>○ 各教科担当者と学年部が協力して、放課後の課題完成作業に取り組みする。 ○ 授業の準備を意識させ、チャイムと同時に開始・終了する。遅刻者には指導を行う。</p> <p>○ 生徒情報交換会(学期始め)や教育相談連絡会(月1回)、教育相談係会議(週1回)を実施し、保健室利用状況等を参考にしながら、支援を要する生徒についての情報共有をはかる。また、教育相談(特別支援教育)に関する職員研修や、生徒対象の保健講話(性に関する)を年1回実施する。 ○ 「合理的配慮」の要望が出た生徒については、職員会議や学年会議で十分に共通理解を図る。また、適切な配慮を必要に応じて提供する。</p>	<p>PL: 生徒育成部長</p> <p>PL: 教育企画部長 SL: 各学年主任</p> <p>PL: 生徒育成部(保健教育相談主任)</p>	<p>2</p> <p>3</p> <p>3</p>	<p>・年間を通して毎月1回の頭髪服装検査を実施し、「身だしなみ」について指導を継続して行った。結果として「違反者5%以内」は達成することができ、最終的には13.6%であった。この要因としては、一部の違反を繰り返す生徒に対して、規範意識を高めることができなかったこと、そして、その保護者に対してはなかなか上手くアプローチできなかった。この2点があれば、しかし、それでも学校全体をみればこの1年間で規範意識は少しずつではあるが高まっている。多少時間は掛かっては粘り強く継続していくことが重要である。</p> <p>・年間を通して、授業を中心に据えた学習指導を各教科担当者に協力してもらい、実施してきた。HR長に授業開始前の着席指導を行わせる中で、生徒自らが意識して授業をより上げる姿勢も少しずつではあるが、浸透してきた。結果として、チャイムで授業開始・終了、遅刻者指導は、概ねできた。一方、学習課題未提出者への指導は、各教科担当者による指導であり、放課後取組をさせる指導にはばらつきがあった。(1年)</p> <p>・生徒情報交換会・教育相談係会議・保健講話(デパートDV防止学習)は予定通り実施できた。教育相談に関する職員研修(3月16日)を実施予定。 ・SCを中心とした相談業務の円滑化と連携に努めた。定期的な相談により情緒の安定を図れた生徒、指導事象からカウンセリングや福祉につなぐことができた生徒、支援学校との連携により専門的な見地から状況の把握ができた生徒など、今年度は他の係や外部との連携により事例に対応できた。生徒のSOSに対応する聞き取りなども、担任や学年からの連絡により早い段階で対応できた。個別対応事例の当事者、保護者や主治医、SC等から、対応については生徒の声を聞いた。 ・生徒の抱える困りの状況は多岐にわたっており、少ない職員で全ての状況に対応することは難しく、専門家や福祉系外部との連携は必須である。 ・「合理的配慮」は保護者への周知と相談の受付等スムーズにできた。関わりの中で特性が浮かび上がってくる生徒も有り、SC・担任・授業担当者・保護者との情報共有や方向性の協議が重要である。中学校の担当者との協議の必要性も感じている。</p>	<p>・次年度も今年度同様に「毎月1回の頭髪服装検査」「朝の校門指導」「昼休みの巡回指導」を継続して行う。規範意識の啓発については、全校集会や学年集会等において粘り強くしつこく理解できるまで説明していく。また保護者に対しては学年通信や学校HPなどを利用して、学校の指導方針や具体的な取り組みを示していく。</p> <p>・引き続き、教科担当者の共通理解のもと、授業に集中する態度の育成を目指していき。課題を増やしてもよいのではと思います。課外での放課後を有効活用した指導を実施したい。(1年)</p> <p>・日常業務としての係会議やSCとの連携による情報共有を元し、他の係や外部との適切な連携を図る。目覚め係同士の連携の意識が重要である。中学校の担当者との協議や、SSWでも検討したい。 ・学年との連絡を密にし、不登校の初期対応をよりスムーズに行えるようにしたい。 ・年度末の職員研修で今年度の相談業務の総括を行い、困りを抱えた生徒への対応を来年度にスムーズに引き継ぎたい。</p>	<p>・毎月の頭髪服装検査により、多くの生徒が身だしなみに気を付け守っている。 ・カシ等でもなかには制服とのバランスが悪いのではと思う生徒を見かけたことがあり、一度鏡で自己チェックしてみてもはと思います。 ・個人差はあるが概ね整っていると思います。</p> <p>・他の進学校の生徒に比べて家ででの学習量が少ないように思います。課題を増やしてもよいのではと思います。 ・課題提出について、家庭では把握が難しい。まだ家庭学習の定着が望まれます。 ・自発的な学習に対するご指導を、引き続きお願いします。</p> <p>・生徒達自ら悩みを吐露しやすいように、スクールカウンセラーが機能し、関係職員で情報共有できていると思います。</p>	
○ 志を実現する主体的学びの定着	<p>○ 授業改善の継続とともに授業規律の確立を図り、授業アンケートにおいて、「意欲的に授業に取り組んでいる」生徒を80%以上にする。</p> <p>○ 国公立大学を含めた大学への合格率の向上を図るとともに、就職(学校紹介)・進学(進路達成100%)をめざす。</p> <p>○ 中高6年間を見通したキャリア教育の在り方を研究し、明確な進路希望を承すことができる生徒90%以上をめざす。</p>	<p>○ 授業改善の取り組みをさらに推進し、授業アンケートの結果を踏まえながら、主体的な学習態度の育成に向けた授業改善を図る。</p> <p>○ 社会に出てから必要とされる基礎学力の向上・定着を図り、生徒一人ひとりに明確な進路目標を持たせる。</p> <p>○ 各研究班による中高の連携を深め、全職員が一体となって連携を推進する。</p> <p>○ 進路保障の観点から、「言わない書かない取り組み」を行い、違反質問に対し組織的に対応する。</p>	<p>○ 授業アンケート(年2回)における生徒の「満足度」の向上をめざしながら、各自が授業の分析・改善を図る。 ○ 研究授業(全教科)を二期に分けて実施する。</p> <p>○ 「生活と学習の記録」や模試データ等を活用し、年間2回以上の個人面談を行う。</p>	<p>PL: 教育企画部長</p> <p>PL: キャリアデザイン部長</p> <p>PL: キャリアデザイン部(中高一貫教育主任)</p>	<p>3</p> <p>3</p> <p>3</p>	<p>・今年度は人権学習の時間を増やし各学期2回実施し、全ての生徒たちの自己実現に向けた取り組みを行った。・平和学習では地元の方の「戦争体験」を語っていただき、たいへん伝わったものがあった。人権講演会は「(まも)と障害者労働セクター」代表の倉田哲也氏を招聘し、事前倉田さん主演のDVDを鑑賞させたこともあり、生徒にとってとても心に響く講演であった。生徒の感想には、「感動した」「障がい者に対する考え方・地方が激変した」との声もあり、とても有意義な講演であった。その他、SNS講習会やいじめアンケート調査、職員研修会、差別をなくす標語やポスターの取り組み、奨学金の取り組み等を実施した。いじめを含めた生徒間のトラブルなど、さまざまな課題や問題に対しては学年やクラス担任と連携し、さらに対策会議等により滞滞のない適切な取り組みができ、ほぼ全てを解決に繋ぐことが出来たと総括している。</p> <p>・今年度は人権学習の時間を増やし各学期2回実施し、全ての生徒たちの自己実現に向けた取り組みを行った。・平和学習では地元の方の「戦争体験」を語っていただき、たいへん伝わったものがあった。人権講演会は「(まも)と障害者労働セクター」代表の倉田哲也氏を招聘し、事前倉田さん主演のDVDを鑑賞させたこともあり、生徒にとってとても心に響く講演であった。生徒の感想には、「感動した」「障がい者に対する考え方・地方が激変した」との声もあり、とても有意義な講演であった。その他、SNS講習会やいじめアンケート調査、職員研修会、差別をなくす標語やポスターの取り組み、奨学金の取り組み等を実施した。いじめを含めた生徒間のトラブルなど、さまざまな課題や問題に対しては学年やクラス担任と連携し、さらに対策会議等により滞滞のない適切な取り組みができ、ほぼ全てを解決に繋ぐことが出来たと総括している。</p>	<p>・今年度、注意を促していたにもかかわらずインターネットやSNSに關係したトラブルや問題事象が発生したため、インターネットやSNS使用に関わる更なる注意喚起と学習の機会を増やすとともに、「相手の気持ちに配慮したコミュニケーション」能力の育成に工夫を凝らすと同時に人権学習を継続して行っていくことが必要であると考えた。 ・3年生の公開人権学習や人権講演会、保護者とともに人権について学ぶ場を設け、参加していただいた保護者の方々からはたいへん好評をいただいた。さらに充実した取り組みにしていきたい。</p>	<p>・本校だけでは無いと思いますが、SNSを介しての様々なトラブルが大変気になります。講演会などを進し、保護者にもしっかり指導されてはどうでしょうか。</p>	
○ 地域に愛される学校づくり	<p>○ 諸活動をおとして、生徒の「仲間づくり」をすすめる、何事にも全力で取り組む自立した生徒、集団の構築を目指す。</p> <p>○ 放課後の活動を活性化し、部活動加入率70%以上をめざすとともに、生徒会活動を充実させるとともに、生徒会活動を実施させる。</p> <p>○ 生徒会活動において、由布市3中学校との合同ボランティアをさらに充実・発展させるとともに、年間5回以上のボランティア活動を行う。 ○ 学力向上、地域貢献、対人マナーアップ等の学校活性化の取り組みを保護者に理解してもらい、年一度は学校行事に参加を促す。</p>	<p>○ 前、後期各3回の定例専門委員会を、生徒自身が主体的に運営できるように、担当教員がサポートを行う。</p> <p>○ 部活動加入率の向上を目指すとともに、部活動において対外試合やコンテスト等に積極的に参加させ、技能の向上・仲間との協力関係の構築に努めさせる。</p> <p>○ 中学校との交流として、由布市中高合同生徒会活動の活性化を図る。</p>	<p>○ 新入生に対して、4月に「部活動体験入部期間」を設けるとともに、入部状況に応じて体験入部機会を追加することを検討し、部活動への加入促進を図る。</p> <p>○ 由布市3中学校との間で、ボランティア活動をはじめとする交流活動を、年間に複数回企画・実施するとともに、活動結果を「由布高だより」などで地域・保護者に配布し、HPでも発信する。</p>	<p>PL: 特別活動部長</p> <p>PL: 特別活動部長</p> <p>PL: キャリアデザイン部(中高一貫教育主任) SL: 各学年主任</p>	<p>4</p> <p>3</p> <p>4</p>	<p>・4月の新入生歓迎行事後に前期生徒会役員選挙を行い、新執行部のリードのもと、「学校自治」の取り組みを始めた。 ・年間6回の専門委員会を開催し、専門委員長のリーダーシップのもと、前後期の活動目標・活動内容を練り、生徒総会の承認を受けて、活動を行った。日常の活動に加えて、定期的な美化活動などを増やし、取り組んだ。 ・10月の大龍祭2017の成功に向けて、大龍祭実行委員会を組織し、活動した。今年は「手作りの大龍祭」とし、生徒・教職員で協力しすべてのだしもの(展示・発表)をおこなう成功をおさめた。 ・大龍祭2017終了後10月半ばに、後期生徒会役員選挙を行い、執行部の一新を図った。大龍祭2017成功の手応えをもとに、前期の反省・後期への引き継ぎを行い、生徒会活動のさらなる活性化をすすめた。リーダー研修会も前後期各1回実施が定例化され、内容も充実・発展している。</p> <p>・4月に「部活動体験入部期間」を設けて、部活動加入を推進し、部活動加入率は66.3%。(昨年同期は66.5%)目標の70%に及ばず。引き続き部活動加入を進めるために、ホームルーム担任による個人面談を通じて、部活動参加の呼びかけを行い、10名が加入した。6月高校総体では射撃部の優勝をはじめ、各部がチームとして協力し活動できた。各部の主幹・部長によるミーティングを行うなど、生徒主体の活動を促す取り組みも進んだ。 ・生徒会・委員会活動・ボランティア活動への参加を促す取り組みを行った。ボランティアには、湯平大・ソーマン流・大会スタッフに昨年の3倍増の30名が参加し、地域の人々とのつながりを深め、充実した活動をおこなった。また、区内厚生館行事のボランティアには2名が参加するなど、新たな取り組みも進んだ。3学期の由布支援学校との交流ボランティアには1年生10名が参加し、交流学習に発展させることができた。</p> <p>・中高合同生徒会を2回開催し、本校生徒会執行部がリーダーシップをとり、中高合同生徒会ボランティアを計画し、由布市内2駅と支援学校の清掃ボランティア活動を実施し、30名が参加した。中学生との交流を進め、ともに活動することで、連帯感・達成感を得ることができた。また、由布高校・市内9中学校が協力して日常の学校生活を改善する取り組みを話し合うなど、さらに中高合同生徒会の活動を充実させることができた。 ・情報発信は多くの情報を取得できるように、係への情報提供を全職員で行った。特に「由布高だより」を月1回発行し、HP・facebookを通して情報発信を定期的・重点的に行った。保護者へのメール発信も活用した。</p>	<p>・生徒会執行部活動と委員会活動の担当に、すべての教員を配置する活性化策を来年度も実施する。 ・各委員会の学年リーダーを活用し、学年ごとの取り組みも担当教員と進めていく。 ・生徒による「学校自治」をさらに進めていく。本年度は、生徒育成部との連携により、生徒総会での要望に基づき「校則の改善」が実現した。「自分たちの学校」という意識を定着させ、生徒会活動・委員会活動の円滑化を進めていきたい。 ・定例化できた生徒会役員リーダー研修会を次年度も2回実施し、執行部と各専門委員長との連携を強化していく。 ・月末に委員会活動の1カ月間の取り組みをふりかえり、執行部との連携を強める執行委員会を開催する。</p> <p>・学年との連携を深め、4月の部活動体験入部期間と併せて行われる「個人面談」を活用し、進路を考えるとともにキャリア形成につながる部活動の意義や先輩たちの声を新入生に届け、部活動加入を勧めていきたい。また、上級生にも同様に進路につながる部活動という意識を持たせていきたい。 ・由布支援学校との交流ボランティアを、回数増や参加者数増を目指して発展させていく方向性を確認した。 生徒育成部と連携し、人権学習HPとリンクさせ、事前・事後の学習を深めたい。 各学年ボランティア活動への参加呼びかけは、朝礼・終礼時に生徒自らが声かけをおこなうシステムを探っていく。</p>	<p>・布市内の中学生に対して、由布高校のイメージアップに繋がっていると思います。</p> <p>・大分市内の中学生が羨む学校を目指してほしい。そのためにも部活動の充実を望みます。 ・部活動に熱心に取り組んでいる生徒達にも、ボランティア活動への意識を高めてほしい。 ・全校生徒数に対して、部活の数が多いいように感じます。 ・部活動の加入率を上げたい割には部活動の選択肢が少ないと感じます。</p>	
総合評価 次年度への展望等	<p>「地域に愛される学校づくり」については、活性化事業や中高一貫教育の取組を通じて、地域や中学校から評価されている。「基本的な生活習慣の確立」については様々な取組を行ったが徹底できなかった部分もあり、生徒の成長に向け、更に職員全員で粘り強く取り組んで行く必要がある。「志を実現する主体的学びの定着」については、授業改善を中心に更に取組を進めていきたい。</p>								